番号	遺跡名	遺跡種別	所在地	系統／器種（タタキ）／焼成／他	推定時期（共伴土器）	備考	文献	福岡市報告	時期の整理
1	元岡・桑原 46 次 B-1 区 包含層	集落	福岡県福岡市西区 （旧志摩郡）	楽浪／筒坏体部上半～口縁部片／瓦質／摩滅著しいが白色泥質胎土、外表面黒灰色	谷部包含層だが遺物僅少、42 次 SD01 の下流にあたり後期後半～終末か？	本報告 Fig. 22-15	久住猛雄 2007	福岡市第 964 集	後期後半～ 終末期か？
2	今宿五郎江 11 次 旧河道上包含層	集落	福岡県福岡市西区 （旧怡土郡）	楽浪／鉢（椀形鉢）4 点以上／瓦質／白色泥質胎土、一部外表面黒灰色、一部暗文風ミガキ	水路遺構上層出土、後期後半～終末期（ＩＢ期以降少ない）	未報告（整理中）	未報告（整理中）		後期後半～ ＩＡ期
3	コノリ 3 次　包含層	集落	福岡県福岡市西区 （旧早良郡）	楽浪／壺？（鍾？）胴部片（縄蓆）／瓦質／白色泥質、内面当具痕跡	包含層は 6 世紀以降を除くと弥生後期後半～ＩＡ期が主体	報文 Fig. 15-114、 寺井誠氏教示	池田祐司 2002、 寺井誠 2006	福岡市第 728 集	後期後半
4	比恵 18 次　P-164	集落	福岡市博多区	楽浪／壺胴部小片（縄蓆）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土、内面当具痕跡	詳細時期不明だが周囲は後期後半～終末の住居多数	報文 Fig. 87-32、 寺井誠氏教示	吉留秀敏 1990、 寺井誠 2006	福岡市第 227 集	後期後半～ 終末期か？
5	比恵 50 次　SP2028	集落	福岡市博多区	楽浪／壺胴部小片（縄蓆）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土、内面当具痕跡	6 世紀後半～ 7 世紀前半の掘立柱建物 SB02 ピットに混入	報告なし、 鄭仁盛氏確認	下村智 1996、 寺井誠 2006	福岡市第 451 集	？（後期後半？）
6	比恵 51 次　SP3102	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（罐？）胴部片（縄蓆）／瓦質／泥質胎土、内面当具痕跡	同じ掘立柱建物の他の柱穴（SP3234）に甕と鉢 2 点あり、甕はＩＡ期でもよいが鉢は浅い器形・丸底で新しくＩＢ期に入る	報文 Fig. 7-6、報告は「三崎系」とするが内外のタタキ痕跡と胎土から楽浪系	白井克也 1996	福岡市第 452 集	ＩＢ期 （終末期新相 ＝古墳早期）
7	比恵 91 次　包含層中層	集落	福岡市博多区	楽浪／大型鉢（盆）底部片／瓦質／白色泥質胎土、摩滅顕著で器表面不明	弥生中期末～後期前半とＩＢ～ＩＩＡ期の土器群、朝鮮半島系に伴うのはおそらく（ＩＢ～）ＩＩＡ期、他に忠清道系大型壺あり	報文 Fig. 29-235	山崎龍雄 2006a	福岡市第 898 集	古墳初頭 （ＩＩＡ期）
8	比恵 91 次　SC13	集落	福岡市博多区	楽浪／筒坏底部片／瓦質／白色泥質胎土、摩滅顕著で器表面不明	ＩＢ期主体・ＩＩＡ期含む土器群（外来系多数）	報文 Fig. 29-234	山崎龍雄 2006a	福岡市第 898 集	古墳初頭 （ＩＩＡ期）
9	那珂 21 次 第 48 号祭祀土壙	墳墓	福岡市博多区	楽浪／壺胴部小片 2（縄蓆）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土	祭祀土壙は弥生墳丘墓の周溝、祭祀土器は中期末主体だが上層は後期前半まで含む	報文 Fig. 232-73・74	山口譲治 1992	福岡市第 291 集	中期末～後期前半
10	那珂 21 次 第 49 号祭祀土壙	墳墓	福岡市博多区	楽浪／壺胴部小片（縄蓆）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土		報文 Fig. 239-32	山口譲治 1992	福岡市第 291 集	中期末～後期前半
11	那珂 73 次　SD02	集落	福岡市博多区	楽浪？／壺（罐または盆？）胴部下部小片（縄蓆）／瓦質／器壁厚い、白色泥質胎土、右撚り縄蓆文、内面は摩滅し器表面不明	SD02 は 7 世紀の遺構（混入）、SD02 に切られる住居址群はＩＢ～ＩＩＢ期、楽浪土器はＩＢ～ＩＩＡ期の可能性	報告は「三崎」としたが白色泥質で楽浪系か、 報文 Fig. 47-364、Ph. 87	久住猛雄 2002	福岡市第 713 集	ＩＢ～ＩＩＡ期 （古墳初頭？）
12	雀居 4 次　SD03 上層	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（長頸壺？）／瓦質／ロクロ目（回転ナデ）顕著、薄い器壁で精巧な作り、焼成堅緻	SD03 上層はＩＡ期が主体（ＩＢ期以降も含む）	報文 Fig. 131-1233	下村智 1995、 寺井誠 2006	福岡市第 406 集	ＩＡ期前後 （終末期か）
13	高畑 19 次　SD030	集落	福岡市博多区	模倣品（楽浪系の模倣か）／筒坏の模倣／軟質（弥生土器と同じ焼成）／円筒状器形・平底、外面ハケメ	後期後半新相～ＩＩＡ期まで	報文 Fig. 12-28、同図 25 はより粗雑な模倣品の可能性	吉武学 2005、 寺井誠 2006	福岡市第 799 集	後期後半～ 終末期か
14	下月隈Ｃ 7 次 SD818　5-2 区（南側）	集落	福岡市博多区	楽浪／筒坏底部片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	5-2 区はＩＡ期～ＩＩＡ期、ＩＢ期前後か	報文 Fig. 72-118	山崎龍雄 2006b	福岡市第 881 集	古墳初頭？
15	下月隈Ｃ 4 次　SD116	集落	福岡市博多区	楽浪／鉢（椀形）体部～口縁部／瓦質／回転ヨコナデ痕跡顕著、泥質胎土	ＩＢ期か？（ＩＡ～ＩＩＡ期）	報文 PL. 82-545	瀧本正志 2004、 寺井誠 2006	福岡市第 750 集	古墳初頭？
16	下月隈Ｃ 8 次 SD818　9 区上層	集落	福岡市博多区	楽浪／筒坏口縁部小片／瓦質／泥質胎土	上層はＩＢ～ＩＩＡ期	報文 Fig. 70-111	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	古墳初頭
17	下月隈Ｃ 8 次 SD1210　最下層			楽浪／筒坏底部片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	多くの遺物はＩＡ期	報文 Fig. 75-154	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	ＩＡ期か？ （後期後半～ 終末期）
18	下月隈Ｃ 8 次 SD1278　3 区			楽浪／筒坏底部～体部下半片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	後期後半～ＩＡ期か	報文 Fig. 93-302	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	後期後半～終末期
19	博多 17 次　SB169 （竪穴住居）	集落？	福岡市博多区	楽浪／長頸壺（口縁部～頸部の同一個体計 2 片）／瓦質／薄い器壁で精製、白色泥質胎土、比較的小型品であろう	SB169 は 7 世紀前半～中頃（九州須恵器編年Ⅳ期）の住居址、SB169 が切る方形周溝墓 SX200 の周溝はⅢＡ期古相、以上はいずれも時期が合致しないが、接している SD161（道路遺構側溝）はＩＢ～ＩＩＣ期でこれが時期をしめすか（ＩＢ～ＩＩＡ期？）	報文 Fig. 17-2・3（同一個体）	柳沢・杉山 1985、 寺井誠 2006	福岡市第 118 集	古墳初頭？

表1：福岡市内における楽浪土器出土一覧表

これについては、関連して次に簡単な考察を加えたい。

２．博多湾岸における楽浪土器の出土動向について

表１には各報告において楽浪土器と認識していないものも含むが、全て実見して確認している。なお表1は、寺井誠が検討した集成表（寺井2006「福岡平野の楽浪系土器」『下月隈Ｃ遺跡Ⅶ』福岡市埋蔵文化財調査報告書第881集）に、さらに補遺集成したものである。楽浪土器の個体認識については寺井2006 によるが、表１の1・2・11・16～18はさらに増えたものである。このうち2の今宿五郎江11次例は整理中のものであり、個体数などは変動がありうる。しかし、大規模調査により一度に弥生後期～古墳前期の集落の大部分を調査したにもかかわらず、今のところ確実なものは鉢（椀）類のみのようである（本市埋蔵文化財第２課杉山富雄氏・加藤隆也氏御教示）。元岡46次例は筒坏であるが、これらのように筒坏や鉢（椀）類のような食器（椀坏類）のみが出土する例が散見される（表１-1･2･14～18）。14～18の下月隈Ｃ遺跡も大規模調査により弥生後期～古墳前期の集落の大半部分を発掘しているが、出土した楽浪土器はいずれも椀坏類のみである。博多（19）や雀居（12）のように長頸壺のみの出土の場合は評価に苦しむが、壱岐の原の辻や13の高畑例のように筒坏が模倣対象になっていることからすれば（寺井誠2006前掲）、楽浪土器の食器（椀坏類）が当時の一部階層（首長層か）の嗜好品であったと考えることができる（寺井誠2006「古墳出現前後における朝鮮半島系土器の故地とその流入背景」『日本考古学協会第72回総会研究発表要旨』）。一方、4～10の比恵・那珂では楽浪土器の器種が多様で出土の時期幅も広い。量的にはやや劣るが、糸島の諸拠点遺跡（三雲、深江井牟田、御床松原）や原の辻の様相に準じ、対外交易の拠点としてよい。椀坏類のみを出土する遺跡は，首長層の嗜好により、こうした対外交易拠点から二次的に楽浪土器を入手したと考えられよう。